

On y va! (オニバ)

ベナンに着きました

ベナンに来て1ヵ月経ちました。7月10日に日本を出発して、シンガポールとエチオピアを経由して22時間かけてベナンに着きました。最初の1ヵ月はベナンの中心であるコトヌーで研修や語学授業、ホームステイをしながら配属に向けて準備をしています。



課外授業

語学授業の中でベナンの観光地へ行く機会がありました。「Ouidah(ウィダ)」という奴隷貿易にまつわる場所です。昔、ベナン人たちは奴隷として南米へ船で運ばされ、働かされていたという歴史があります。奴隷の悲しさを感じ、これからベナンを幸せにさせたいと思いました。

語学授業

14日間、ベナン人講師のフランス語によるフランス語と現地語の授業を受けていました。ベナンには約46の民族が存在し、それぞれが言語を持っています。私が働く地域は「Nago(ナゴ)語」です。「こんにちは=エカーロー」「元気?=オジダダ?」と言います。使ってみてください!!



↑奴隷貿易の出発地点!この後ろは大西洋

ホームステイ

語学授業の間などの20日間、ベナンでホームステイをしていました。ベナン人と共に暮らし、話し、食事していました。

私の家にはまずシャワーがなかったり、トイレが外で便座がなかったり、部屋が玄関みたいな床だったりと過酷でした。また、食事も辛くて1回で水を1.5L飲み干すことをありました。



←パット
トウモロコシをすりつぶしたもの!
このタレが激辛!



同期隊員11人が各家庭に入ることでそれぞれの家庭を比べることができ、自分の環境の過酷を実感しました。それと同時に私の家庭がベナン基準となるのではなく、1つの例に過ぎないと思えるようになりました。比べることで自分の位置を認識できるとともに自分の環境が絶対ではないと気が付くことができます。

活動に向けて

8月16日にベナンのサケテ市に配属され、本格的に生活と活動が始まります。ベナンに来て1ヵ月長かったです。それはたくさんの刺激、違い、悩みなどがはっきりとすることができるからです。日本との違いは特に感じます。それは便利さの違いです。発展とは便利であると思いました。ベナンはとても遅れています。それでも楽し

み、笑い、生活を送っています。途上国で暮らすということは違いを多く感じることです。活動を通して、その違いに気付き、その違いを考え、そして言葉にして行動していきます。やはり、ベナンは過酷です。しかし、楽だから楽しいのか、辛いから悲しいのかそれは共に暮らし、働かないと分かりません。皆さんも気付き、考え、行動することに目を向けてみましょう。